

机上配布資料

肝機能検査、血中脂質検査、血糖検査、尿糖検査に関する論点案

1 肝機能検査

GOT、GPT、 γ -GTPは肝機能障害の指標であるが、文献レビューでは、GPT、 γ -GTPは、虚血性心疾患や脳血管疾患等の発症予測能もあるとしている。

「第3回特定健康診査・特定保健指導のあり方に関する検討会」においては、「虚血性心疾患や脳血管疾患等の発症予測能が低いGOTは健診項目から廃止することも可能とする。」としている。

肝機能検査は、肝機能障害を把握し就業上の措置などを行うことを目的としており、1)「産業医のコンセンサス調査（森教授）」では、調査対象のうち一定の産業医が肝機能検査を就業制限等に活用（勤務実態が適切な受診行動や生活習慣確保を妨げており就業制限等をかけ適切な受診行動・健康管理を促すために活用）するとした調査結果、2)「作業関連疾患の予防等に資する一般定期健康診断を通じた効果的な健康管理に関する研究（大久保教授）」では、調査対象の産業医等においては肝機能検査を就業制限・適正配置に利用することは少なかったと回答した調査結果があるとしている。

これらから、定期健康診断においては、1) 過労死防止対策の充実が求められている中、GPT、 γ -GTPを虚血性心疾患、脳血管疾患等の発症防止の観点から活用すること、2) GOTを含む肝機能検査は程度に差があるが就業上の措置において活用が期待できることなどから、引き続き、健診項目として維持してはどうか。

2 血中脂質検査

脂質代謝異常（低HDLコレステロール血症、高LDLコレステロール血症又は高コレステロール血症、高トリグリセライド血症）は、日本高血圧学会の「高血圧治療ガイドライン2014」では脳心臓疾患の危険因子の1つとしている。

調査研究ではLDLコレステロール直接測定法には測定精度に課題があるとしているが、LDLコレステロールは、総コレステロール、トリグリセライド、

HDLコレステロールから計算可能である。

「第3回特定健康診査・特定保健指導のあり方に関する検討会」においては、「LDLコレステロール直接測定法を健診項目から廃止し、総コレステロールを健診項目へ追加する。」などとしている。

「作業関連疾患の予防等に資する一般定期健康診断を通じた効果的な健康管理に関する研究（大久保教授）」などでは、血中脂質検査のみを脳心臓疾患に係る就業上の措置に活用することは少なかったが、他の指標とともに複合的に活用するとしている。

これらから、定期健康診断においては、血中脂質検査を、総コレステロールの検査を追加・LDLコレステロールの検査を廃止した上で、引き続き、健診項目として維持してはどうか。

3 血糖検査

糖尿病は、「高血圧治療ガイドライン2014」では脳心臓疾患の危険因子の1つとしている。

また、糖尿病の診断は、日本糖尿病学会の「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013」では、空腹時血糖のみならず、随時血糖も活用されている。

「第3回特定健康診査・特定保健指導のあり方に関する検討会」においては、「随時血糖でも虚血性心疾患や脳血管疾患の発症予測能があり、健診項目として活用可能である。」としている。

「作業関連疾患の予防等に資する一般定期健康診断を通じた効果的な健康管理に関する研究（大久保教授）」などでは、血糖は脳心臓疾患のリスク因子として就業上の措置に活用するとしている。

これらから、血糖検査は、定期健康診断等の項目として、空腹時血糖のみならず、随時血糖も含めて、引き続き、健診項目として維持してはどうか。

4 尿糖検査

糖尿病は、「高血圧治療ガイドライン2014」では脳心臓疾患の危険因子の1つであるが、尿糖は、「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013」では糖尿病の診断には用いられない。

「第3回特定健康診査・特定保健指導のあり方に関する検討会」においては、「尿糖は健診項目から廃止することも可能とする。」としている。

これらから、定期健康診断等においては、血糖の検査が必須である40歳以上及び35歳については尿糖を廃止する方向で整理してはどうか。

なお、血糖の検査が必須でない40歳未満（35歳を除く）への対応は、別途、尿検査全体の取扱い、代替措置も含めて、判断することが必要ではないか。